日本共産党
流山深井後援会

ニュースあすなろ

14年9月15日
第187号
発行責任者
菊池 伍郎
TEL/FAX
7154−0526
（部内資料）

福祉手当削減ストップを

市当局　12月議会に改悪案提出狙う

9月4日から流山市議会が始まりました。

植田和子議員は、6月議会で福祉手当削減案の撤回を求め、市民と力を合わせた運動で、9月議会提出は断念させました。

ところが、障害者の生活を守る「福祉手当」を大きく減らす「福祉手当削減条例案」が12月に提出される見通しです。これに対し、障害者や生活と健康を守る会など流山市社会福祉協議会は「障害者いじめをやめよ」の署名運動をさらに大きく広げようとしています。

6月に行われたパブリックコメントでは、寄せられた市民の意見72名の内70名が削減反対でした。

さらに9月議会でもこの問題で「新たに事業をするなら新たに予算を組むべきではないか。福祉手当を削減して浮いた財源をそれに回すのはぐるぐる回しているだけだ」と、当局を厳しく追及しました。

部長は「第4期障害者福祉計画」実現のための財源の必要性を繰り返すだけでした。

議会を傍聴した障害者の一人は、植田議員の追及に「スッキリした」と感想を語っていました。

植田和子市議会議員

原発から撤退　ただ今原発ゼロ!!

流山市が自衛隊に若者の名簿提供
「自衛官募集」案内に協力

集団的自衛権の容認を閣議決定して以降全国で「自衛官募集」の動きが強まっている中、県から異例の協力依頼があり、流山市が住民基本台帳から該当者を抽出してコピーを渡していたことが分かりました。市民からも抗議の声があがっています。

9月11日のいぬい紳一郎市議の一般質問で、協力の実態を問いました。一部を紹介します。

市民生活部長＝自衛官募集にともなう適齢者名簿については、平成25年度までは自衛隊職員2名が10日間程度かけて住民基本台帳の写しの閲覧を行い名簿作成を行っていた。平成25年度においては該当者は2763人であった。流山市個人情報保護条例第8条、目的外利用の制限例外事項に該当することから提供した。提出にあたっては市民課と情報公開の点で慎重に判断した。

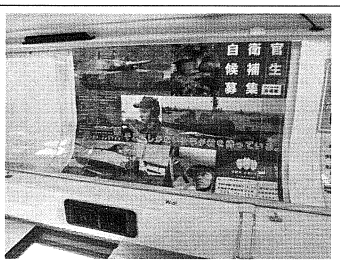
いぬい議員＝住民基本台帳の写しは基本台帳法にはない。自衛隊法で資料の提出を求めることができる、とあるが市区町村長の判断で断れる。

今の状況は、海外での武力行使で戦死者がでる可能性がある、ということだ。流山市が自衛官募集に協力して、市内の若者の中に戦死者がでてくるような新たな局面のなかで市長としてはそのままでいいのか。

市長＝理解しているつもりだ。次年度以降、さらに慎重に判断していきたい。

いぬい議員＝本人に確認もしないまま名簿を出したことは、個人情報云々の時代に市民に衝撃を与えた。このことを受け止めて平和都市宣言に合致するようにやってもらいたい。

と、追及しました。



ぐりーんバスに貼られた自衛官募集のポスター　徳増議員提供

流山市の政務調査費どうなってるの？

兵庫県県議の政務活動費がとんでもない使い方をしていることが明らかになり、各地の地方議会でも、問題が噴出している政務活動費ですが、流山市では、次のような運営がされています。（いぬい市議団長に聞いてみました。2回に分けて掲載）

1、金額は、1議員月4万円、年間48万円です。しかし、これは原則として議員個人に支給されるものではなく、会派に支給されるものとなっています。（例外は会派に属さない議員は、議員個人に支給されています。）

2、支出に当たっては、会派における合意がなければなりませんし、会派に会計責任者を置き、代表者も使い方がどうなっているかについては認識することとなっています。

3、そのうえで、議会事務局で、各地の判例などを参考に、支出できる項目の基準を定めており、議員会全体で確認されています。

4、ですから、世間で言われているように、議員の第2の財布という実感はありません。あくまでも、会派としての広報活動や調査活動などのための支出となっており、予算も権限もたっぷり持っている市長・執行部をチェックし、市民の立場から提案していく議会の役割を発揮するための必要な経費と考えています。

次号に続く

こんにちは　植田和子です

8月27日　9月議会が始まります。今回は、とても嬉しいお知らせがあります。議案として出る予定だった福祉手当削減の条例案が、見送られることになりました。市民のみなさんの運動のおかげです。私も、6月議会の一般質問で、長時間質問しましたが、やった甲斐がありました。ただ、今度は12月議会に出てくる可能性があるので、引き続き、署名活動は続けます。

8月29日　集団的自衛権の閣議決定後、全国で、18歳前後の男女に自衛隊の入隊案内のダイレクトメールが送付されていますが、流山市も、自衛隊に協力していたことが明らかになりました。最初は、まさか、と思っていたのですが、担当課長に『本当なの？』と、聞いたら、H4年生まれ（今年22歳）と、H8年生まれ（今年18歳）の男女の名簿を自衛隊に渡していたことを打ち明けられ、衝撃でした。

9月12日　自衛隊に名簿を渡した件ですが、『来年度から慎重に判断する。』という市長答弁がありました。乾議員の一般質問が終わってから、担当部長に『保護者は、子どもを大人になるまで大事に育ててるのに、戦場に送るために育ててるんじゃない、母親を怒らせないで』と、再び抗議しました。

ヘッドライト

異常気象が激しさを増す。豪雨も半端じゃない。「バケツをひっくり返したような」でも言い足りない。大体バケツのなかった時代にはなんと表現していたんだろう。英語では「猫も犬も降ってくる」というのだとか▼気象庁が今年「いままで経験したこともない」という言い方を始めた。「もう、何とも言いようのない」ということだろう。これより強くなったらどうするのだろう。こうした自然現象の強さ、災害の危険度などを表現するのは難しい。肝心なのはそれがどのように伝わるかだ▼注意報、警報、避難準備情報、避難指示、避難勧告などが出るが、どれがどの程度の強さなのかどれほどの人が理解しているだろう。もっと分かりやすく数値化する方が共通理解を広めることになるのではないだろうか。地震の震度いくつというのはすっかり定着している▼言葉というものは日々その意味合いが変わる、「大至急」集まれ、などは急ぐ上に急ぎの極みで至急といい、さらに大を付けたものだが、頻繁に使っているうちにマヒしており、かえって「急いで」と言った方が素直に急ぐ。すこしでも被災者を減らすために。